



おとがわ



ふお～ゆ～

校長室だより

第 32 号

R3.11.1

文責 中西 勉



「下弦の月」の観察 ～本物を見て学ぶことの大切さ～

先週10月29日(金)に、4-2の子供たちが理科の授業で「下弦の月」を観察しました。天体に詳しい11組担任の伊藤先生が天体望遠鏡を準備してくださり、一人一人が望遠鏡を覗いて、本物の月を見ながら学びました。子供たちは、月が半分に欠けている様子や月の表面にある無数のクレーターなどに驚きの声を挙げていました。校内のICT機器が充実している今、月の満ち欠けの学習は、パソコンやタブレット等で映像を見て学習することもできますが、やはり本物を見て学ぶことに勝るものはありません。子供たちが望遠鏡を覗きながら上げた歓声が、そのことをよく物語っていました。



シリーズ「東京オリンピック」⑩ ～「きょうだい」の絆～

シリーズ第10回は、兄と妹、姉と妹の絆で金メダルに輝いた二組の「きょうだい」に注目します。一組目は、柔道男子66キロ級の阿部一二三選手と女子52キロ級の阿部詩選手です。阿部兄妹は、幼い頃から、互いに高め合い、支え合いながら、この東京オリンピックを目指してきました。試合に臨む前に、兄の一二三選手は、「妹に負けてられない。兄らしい姿を見せたい」と語り、また、三つ下の詩選手は、「兄を追いかけてきた。やっと同じ舞台に立てる」と奮い立つ姿を見せました。二人は奇しくも同じ日に決勝戦に挑むことになり、先に詩選手が金メダルを獲得しました。そして、詩選手が固唾を呑んで兄の決勝戦を見守る中、一二三選手も見事に勝利し、その瞬間、詩選手は自分のとき以上に満面の笑みを浮かべて大喜びしていたのが印象的でした。



二組目は、レスリング女子57キロ級の川合梨紗子選手と62キロ級の川合友香子選手です。姉の梨紗子選手は、リオデジャネイロオリンピックの63キロ級(東京オリンピックの62キロ級に相当)で金メダルを獲得し、今回は連覇がかかっていました。しかし、その階級を妹の友香子選手に譲り、自分は減量をして一つ下の57キロ級に出場しました。自分の得意な階級を変更して出場するという選択に、姉としての妹への思いやりの深さを感じました。一方、友香子選手は、「梨紗子選手の妹」という肩書で呼ばれることに悔しい思いをしており、自らが金メダルを取ることでそれを払拭しようと必死でした。こうした二人の思いは共に花開き、姉妹で揃って金メダルを手にし、最高の笑顔を見せてくれました。



二組の「きょうだい」は、共に二人で支え合い、また、よきライバルとして高め合ってきました。深い絆で支えられた「きょうだい」パワーは、本当に偉大ですね。